

参加費：無料

【公開シンポジウム】 養豚において 現場で実践可能な最新技術

主 催：日本学術会議畜産学分科会, 日本畜産学アカデミー
日本養豚学会, 独立行政法人家畜改良センター
日 時：令和元年10月24日(木) 14:00～16:00
場 所：福島県白河市 新白信ビル3階イベントホール

現在、わが国の養豚情勢を取り巻く環境は厳しく、また大きく変化しつつあります。安価な豚肉、またはイベリコ豚などの高品質な豚肉の輸入が増加しており、国産豚肉のシェアが低下傾向にある一方で、農産物の輸出は国策として推進されており、高品質な国産豚肉生産とその海外輸出にも期待が寄せられています。また豚コレラなどの疾病が世界中で猛威を振るい、わが国でも一部地域に深刻な被害を与えています。国産豚肉が国内外でしっかりとした競争力を得るためには食味の良い高品質な豚肉を効率的に生産することが重要です。また病気のリスクや遺伝子の保存を考えると、現場への種豚の導入は生体よりも受精卵の方が圧倒的に有利です。そこで、本シンポジウムでは、食味の良い豚肉の評価方法や生産技術、さらにはその基礎となる種豚のゲノムを用いた育種改良技術、また非外科的受精卵移植技術といった現場で実践できる様々な分野の最新技術について紹介し、議論いたします。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

次 第:

- 14:00～14:10 開会挨拶 矢野 秀雄 (日本畜産学アカデミー 会長)
- 14:10～15:00 <基調講演> 座長 吉澤 緑 (日本学術会議連携会員、日本畜産学アカデミー)
豚肉品質向上技術について
入江 正和 (日本畜産学アカデミー、独立行政法人 家畜改良センター 理事長)
- 15:00～15:30 <一般講演> 座長 柏崎 直巳 (日本学術会議連携会員、日本畜産学会理事長)
—肉質分野— 豚肉の脂肪交雑と評価技術
松本 和典 (独立行政法人 家畜改良センター 改良技術課長)
- 15:30～15:50 —遺伝育種分野— ゲノム情報を用いた豚の育種改良技術
小島 孝敏 (独立行政法人 家畜改良センター 技術専門役)
- 15:50～16:10 —繁殖分野— 豚受精卵の超低温保存と非外科的移植技術
平山 祐理 (独立行政法人 家畜改良センター 新技術第3係長)
- 16:10～16:30 総合討論
- 16:30～16:40 閉会挨拶 眞鍋 昇 (日本学術会議会員、独立行政法人 家畜改良センター 理事)